

(その2)

教育研究業績書

月10日

平成14年6

氏名 北林 一 男

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 教育に関して以下の経験がある。 米国メイヨークリニックおよび マウントサイナイ医科大学 クリ ニカルフェロー		2回にわたる米国でのクリニカルフェロー時代に、 米国の医学生や外科レジデントを対象に、ベッドサ イドおよび手術室において、チームリーダーとして 指導した。日米両国の一般外科における卒後医学研 修の違いを知りうる立場にあり、米国流の学生参加 型グループ医療のノウハウがある。米国での手術経 験も豊富（脳死肝移植約50例、死体腎移植約20 例、脳死ドナーからの臓器摘出約100例を執刀） で、医学英語にも精通している。
2 作成した教科書、教材		
3 当該教員の教育上の能力に関 する 大学の評価		
4 その他		
職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要
特になし		

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 1. 集検で発見された甲状腺癌症例の検討	共著	昭和60年	内分泌外科 2	石川県における当科が中心に行った視触診による甲状腺癌集団検診にて発見された甲状腺癌を集計し、その特徴について検討した。 P 231-236, (本人担当部分: 実際の検診現場の報告と統計処理) 野口昌邦、北林一男、山田洋巳、藤井久丈、滝川 豊、宮崎逸夫
2. 拡大乳切症例の胸骨傍部転移像およびその手術成績	共著	昭和60年	外科診療 27	当科では、乳癌に対して、従来の定型的乳房切断術に加えて胸骨縦割による胸骨傍リンパ節郭清を施行してきた。胸骨傍リンパ節の転移状況を検討するとともに、この術式により予後の向上が認められた。 P 326-333, (本人担当部分: 標本の整理とデータ解析) 野口昌邦、北林一男、田尻 潔、高橋信樹、藤井久丈、滝川 豊、宮崎逸夫
3. 高カロリー輸液管理における微量元素投与の有効性	共著	昭和61年	J J P E N 8	当科で経験した中心静脈栄養患者における微量元素投与の有効性を検討した。 P 745-749, (本人担当部分: 実際の対象患者の管理) 能登啓文、藤田秀春、八木雅夫、嶋 裕一、伊藤雅之、堀地 肇、北林一男、宮崎逸夫
4. 高カロリー輸液療法における新総合アミノ酸 P-1 の有用性	共著	昭和61年	薬理と治療 14	中心静脈栄養における分枝鎖アミノ酸に富むアミノ酸製剤の有効性を検討した。 P 6441-6448, (本人担当部分: 対象患者の管理) 能登啓文、八木雅夫、嶋 裕一、伊藤雅之、高森正人、北林一男、宮崎逸夫
5. 画像診断による食道癌の深達度診断 一特に他臓器浸潤の診断を中心に	共著	昭和62年	外科診療 29	術前のCTを中心とする画像写真から、食道癌89例にたいして、深達度診断に有用な因子を検索した。特に、腫瘍と大動脈の接触角が大動脈浸潤の有無を推定する上で有効であることを証明した。 P 779-784, (本人担当部分: 研究立案から実際の検討、データ解析全てを担当) 北林一男、能登啓文、嶋 裕一、伊藤雅之、角谷直孝、宮崎逸夫、藤田秀春
6. 術後蛋白異化抑制におけるBCAAの役割、窒素出納別群間比較	共著	昭和62年	日本静脈経腸栄養研究会誌 2	中心静脈栄養における分枝鎖アミノ酸に富むアミノ酸製剤の窒素出納が対照群と比較して良好であることを証明した。 P 296-301, (本人担当部分: 患者管理、データ処理) 能登啓文、八木雅夫、桐山正人、嶋 裕一、伊藤雅之、北林一男、宮崎逸夫
7. 小腸咀血後の吸収障害に関する実験的研究	共著	昭和62年	消化と吸収 10	superoxide産生阻害剤による吸収機能の変化を犬の小腸絨毛のNa ⁺ -K ⁺ -ATPase活性の面から検討した結果,allopurinolの投与は小腸粘膜の保護に有効であった。 P 116-119, (本人担当部分: 実験協力) 高森正人、八木雅夫、北林一男、中野泰治、富田 寛、泉 良平、小西孝司、宮崎逸夫
8. ミラクリッドを投与した急性循環不全のショックスコアおよび血中β-グルコナーゼならびに顆粒球イクターゼ活性	共著	昭和62年	臨床と研究 64	ショックの患者にミラクリッド製剤を投与することにより、ショック症状および各種スコアが改善した。 P 2291-2294, 八木雅夫、富田 寛、中野泰治、北林一男、高森正人、伊藤雅之、山口明夫、米村 豊、泉 良平、能登啓文、小西孝司、宮崎逸夫

9. 胸部食道癌の遠隔成績に対する上縦隔廓清の効果	共著	昭和63年	日本消化器外科学会雑誌 21	食道癌手術において従来の郭清に加えて上縦隔リンパ節郭清を施行することにより、長期予後が改善した。 P 997-1002, (本人担当部分: 実際の患者管理、標本整理) 藤田秀春、野手雅幸、中川原儀三、能登啓文、草島義徳、大戸 司、片山寛次、田中茂弘、嶋 裕一、桐山正人、西村元一、橋本哲夫、 <u>北林一男</u> 、宮崎逸夫
10. 北陸三県における中等症および重症急性膵炎の実態調査—アンケート調査の集計報告—	共著	昭和63年	北陸外科学会雑誌 7	北陸3県の主たる病院の医師に、急性膵炎の実体につきアンケート調査を行った。 P 29-32, (本人担当部分: データ処理) 小西孝司、渡辺俊雄、 <u>北林一男</u> 、藪下和久、清水康一、八木雅夫、泉 良平、宮崎逸夫
11. 肝細胞癌の再発形式と治療	共著	平成元年	日本臨床外科医学会雑誌 50	肝細胞癌における治癒切除術および相対的非治癒切除術59例のうち再発例は24例(40.7%)で、再発に有意に関連する因子として、切除術式、腫瘍径、門脈内腫瘍栓があげられた。再発形式は単発8例、多発16例で、前者の予後は後者に比べて有意に良好であった。 P 2141-2145, (本人担当部分: 患者管理とデータ処理) 泉 良平、堀地 肇、清水康一、藪下和久、渡辺俊雄、 <u>北林一男</u> 、谷 卓、宮崎逸夫
12. 肝細胞癌に対する動注化学療法による長期生存例の検討	共著	平成元年	癌と化学療法 16	再発あるいは進行肝細胞癌に対する動注化学療法を施行した長期生存例の特徴を検索した。 P 2965-2968, (本人担当部分: 患者管理とデータ処理) 泉 良平、清水康一、藪下和久、渡辺俊雄、堀地 肇、 <u>北林一男</u> 、谷 卓、浦出雅昭、伊予部尊和、瀬川正孝、榎谷博孝、宮崎逸夫
13. 腹直筋皮弁・広背筋同時使用による乳房再建術	共著	平成元年	手術 43	乳癌手術後の乳房再建術として腹直筋皮弁と広背筋を同時に使用し、しかも下腹壁動静脈と胸背動静脈を吻合する術式を考案したので、それについて詳述した。 P 1385-1388, (本人担当部分: 実際の手術における血管吻合を施行) 谷屋隆雄、野口昌邦、富田 寛、 <u>北林一男</u> 、熊木健雄、宮崎逸夫
14. Experimental Study on the relationship between prostaglandin production	共著	平成元年	Transplant Proceedings 21	イヌ同種膵移植モデルにおける急性拒絶反応の早期パラメーターとして、アラキドン酸カスケードの中のシクロオキシゲナーゼ系の有用性を証明した。 P 505-550, (本人担当部分: 実験の協力とデータ解析) Hashimoto T, Izumi R, Konishi K, Yagi M, Takahashi N, Takamori M, Ohhori I, Watanabe T, Yabushita K, <u>Kitabayashi K</u> , Tomita K, Miyazaki I
15. Autotransplantation of canine pancreatic islets isolated from cryopreserved pancreas	共著	平成元年	Transplantation Proceedings 21	イヌ自己膵ラ島移植における、膵組織の適正な保存方法について検索した。 P 2650-2652 (本人担当部分: 実験の協力とデータ解析) Konishi K, Sekino H, Izumi R, Shimizu K, <u>Kitabayashi K</u> , Watanabe T, Hashimoto T, Yagi M, Miyazaki I
16. 炎症性乳癌の治療	共著	平成2年	外科 52	予後の不良である炎症性乳癌について、当科の症例をレビューしながら、総括した。 P 467-473, (本人担当部分: 当科で経験した2例についてまとめた) 野口昌邦、谷屋隆雄、小矢崎直博、 <u>北林一</u>

				男、宮崎逸夫
17. 肝細胞癌切除例の予後と術後肝局所療法の有効性	共著	平成2年	日本消化器外科学会雑誌 23	肝細胞癌切除例80例について検討し、術後無再発生存率が有意に良好な因子として、腫瘍径2cm以下、被膜浸潤陰性、門脈侵襲陰性、肝内転移陰性、切除断端陰性があげられた。肝動注などの術後局所療法施行例の予後は非施行例に比べて有意に良好であった。 P 18-22, (本人担当部分: 患者管理とデータ解析) 泉 良平、清水康一、渡辺俊雄、藪下和久、堀地 肇、 <u>北林一男</u> 、谷 卓、桐山正人、宮崎逸夫
18. <特集>動注癌化学療法 原発性肝細胞癌症例に対する術後動注化学療法による手術適応の拡大	共著	平成2年	癌と化学療法 17	当初手術不能な進行肝細胞癌に対して動注化学療法を施行することにより、切除可能となる症例があり、予後の改善が認められる。 P 1629-1623, (本人担当部分: 患者管理とデータ解析) 桐山正人、泉 良平、浦出 、谷 卓、 <u>北林一男</u> 、富田 寛、堀地 肇、清水康一、宮崎逸夫
19. Stage IV肝細胞癌症例の治療成績	共著	平成3年	日本臨床外科学会雑誌 52	進行肝細胞癌にたいして、放射線、化学療法、免疫療法を組み合わせることで、予後の改善が認められる。P 755-759, (本人担当部分: 患者管理とデータ解析) 桐山正人、泉 良平、伊与部尊和、榎谷博孝、浦出雅昭、谷 卓、堀地 肇、 <u>北林一男</u> 、橋本哲夫、清水康一、八木雅夫、宮崎逸夫
20. イヌ同種臍移植における15-deoxyspergualinの投与方法に関する実験的研究 (博士論文; 金沢大学)	単著	平成3年	金沢大学十全医学会雑誌 100	イヌ同種臍移植における急性拒絶反応の治療薬としての15-deoxyspergualinの有用性を検討した。 P 256-267, (本人担当部分: 研究立案、動物実験、データ処理等の全般を担当) <u>北林一男</u>
21. Effect of 5-lipoxygenase on canine pancreatic allotransplantation	共著	平成3年	Transplant Proceedings 23	イヌ同種臍移植モデルにおける急性拒絶反応の早期パラメーターとして、アラキドン酸カスケードの中のリポキシゲナーゼ系の有用性とその阻害剤が治療薬として有用であることを証明した。 P 1679-1680, (本人担当部分: 動物実験の協力) Horichi H, Izumi R, Shimizu K, Konishi K, <u>Kitabayashi K</u> , Watanabe T, Miyazaki I
22. 胃癌における術前腹腔内生理食塩水注入による回収液細胞診とcancer antigen 125測定に関する研究	共著	平成4年	日本消化器外科学会雑誌 25	胃癌54例を対象として術前に生理食塩水1000ccを腹腔内に注入し、回収液の細胞診とCA125濃度の測定を行った。回収液の細胞診は術中細胞診の精度と等しく、回収液中のCA125濃度は血液中CA125濃度と相関し、予後的漿膜面因子陽性例で有意に高値を示した。 P 14-18, (本人担当部分: 患者管理と実験の協力) 加藤真史、澤 敏治、木下一夫、中野泰治、 <u>北林一男</u> 、吉光外宏
23. 胃癌に対する腹腔内化学療法の検討	共著	平成4年	癌と化学療法 19;	胃癌手術における閉腹時腹腔内化学療法について検討した結果、抗癌剤の種類や非切除例には予後に差を認めなかったが、切除例のうち肝転移(-)、腹膜播種(+)症例における同療法の有効性が認められた。P 1734-1737, (本人担当部分: 手術および術後管理の協力) 小坂健夫、平野晃一、竹川 茂、 <u>北林一男</u> 、後藤田治公、秋山高儀、桐山正人、斎藤人志、富田富士夫、喜多一郎、小島靖彦、高島茂樹

24. 胃癌における術前血中腫瘍マーカー CEA, CA19-9, CA125値の臨床的意義	共著	平成4年	腫瘍マーカー研究会誌	胃癌患者の術前腫瘍マーカーについて予後因子としての意義を多変量解析にて検討した結果、CEAのみが有意な予後因子であった。 P95-98, (本人担当部分：患者管理) 小坂健夫、平野晃一、 <u>北林一男</u> 、竹川 茂、後藤田治公、秋山高儀、桐山正人、富田富士夫、斎藤人志、喜多一郎、小島靖彦、高島茂樹
25. 腹腔内出血手術症例における診断方法と手術時期の検討	共著	平成5年	腹部救急診療の進歩 13	腹部外傷症例のうちCTスキャンを施行した33例のうち32例(97%)に腹腔内出血の診断が得られ、57%で損傷部位の同定が可能であった。保存的治療においても、画像診断による経過観察が重要であった。 P 39-43, (本人担当部分：患者管理) 桐山正人、 <u>北林一男</u> 、竹川 茂、後藤田治公、秋山高儀、富田富士夫、小坂健夫、斎藤人志、喜多一郎、小島靖彦、高島茂樹
26. Increased graft survival by utilization of 15-deoxyspergualin in a canine pancreatic allotransplantation model	共著	平成6年	European Surgical Research 26	イヌ同種膵移植モデルにおける急性拒絶反応時の血中プロスタグランジンの推移を明らかにした。また、進行中の急性拒絶反応に対して、15-deoxyspergualinの治療薬としての有用性と適正量をプロスタグランジンへの影響と関連づけて検索証明した。 P 54-61, (本人担当部分：研究立案、実験、データ解析、執筆) <u>Kitabayashi K</u> , Izumi R, Konishi K, Shimizu K, Miyazaki I
27. メイヨークリニックにおける肝移植手術	共著	平成7年	金沢医科大学雑誌 20	メイヨークリニックにおける肝移植の手術手技を詳述し、ドナーおよびレシピエント手術の工夫と問題点について言及した。 P 294-300, (本人担当部分：全般を担当) <u>北林一男</u> 、高島茂樹、Ruud AF Krom
28. Comparison of OKT3 and antithymocyte globulin as induction immunosuppressive agents in renal transplantation	共著	平成8年	Transplantation Proceedings (Transplantatio Japonica) 28	ヒト腎移植における導入免疫抑制療法として、モノクローナルなOKT3とポリクローナルなantithymocyte globulinの効果を比較検討した。 P 1973-1975, (本人担当部分：研究立案、データ検索、執筆) <u>Kitabayashi K</u> , Munn SR, Sterioff S
29. 肝内結石症に対する胆道ドレナージ後の血清および胆汁中interleukin 6の推移	共著	平成9年	胆と膵 18	胆道ドレナージの施行された肝内結石症9例と総胆管結石症17例に対するドレナージ前後の血清および胆汁中のインターロイキン6の推移を検討したところ、肝内結石症に伴う慢性増殖性胆管炎や肝萎縮などの病態形成に胆汁中インターロイキン6の関与が示唆された。 (本人担当部分：患者管理と検体処理) P 483-488, 秋山高儀、長谷川泰介、瀬島照弘、佐原博之、 <u>北林一男</u> 、瀬戸啓太郎、斎藤人志、高島茂樹、布和朝魯
30. 重症外傷性肝損傷症例の検討	共著	平成9年	日本外科系連合学会誌 22	肝損傷症例を臨床病理学的に分析し、血中トランスアミナーゼ値がその重症度をよく反映することを証明した。 P 78-81, (本人担当部分：研究立案から全般を担当) <u>北林一男</u> 、佐原博之、秋山高儀、富田富士夫、斎藤人志、小坂健夫、喜多一郎、高島茂樹
31. Arterial Ketone Body Ratio in Clinical Liver Transplantation	共著	平成10年	Transplantation Proceedings (Transplantatio	ヒト肝移植における、移植グラフトのviabilityの指標としてのAKBRの意義を検証した。 P 4356-4359,

			Japonica) 30	(本人担当部分：研究立案から全般を担当) Kitabayashi K, Gores GJ, Krom RAF
32. Anomalous junction of the pancreaticobiliary duct accompanied by gallbladder cancer and obstructive jaundice in a patient with high serum and bile cytokine levels	共著	平成10年	J Gastroenterology 33	膵胆道合流異常症における膵液の胆管内逆流は、血中および胆汁中のサイトカインの上昇と関連し、胆嚢癌の発生とも関連している可能性を検索した。 P 597-691 (本人担当部分：患者管理と検体処理) Akiyama T, Hasegawa T, Sejima T, Sahara H, Kitabayashi K, Seto K, Saito H, Takashima S:
33. 閉塞性黄疸に対するPTCD前後の血清および胆汁中tumor necrosis factor αの推移、	共著	平成10年	日本消化器病学会雑誌 95	炎症反応のマーカーであるTNFαの、PTCDによる減黄処置により変化することを検討した。 P 26-30, (本人担当部分：患者管理と検体処理) 秋山高儀、長谷川泰介、瀬島照弘、佐原博之、北林一男、瀬戸啓太郎、斎藤人志、高島茂樹
34. 腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した副肝管症例の検討	共著	平成10年	日本外科系連合学会誌 23	腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した161例のうち肝外胆道に走行以上異常を認めた7例について検討した。胆道損傷を予防するには、術前のERC,DIC後3D-CTや術中超音波、術中胆管造影等が重要である。 P 975-979, (本人担当部分：患者管理と手術の協力) 佐原博之、長谷川泰介、北林一男、秋山高儀、斎藤人志、小坂健夫、喜多一郎、高島茂樹
35. Successful liver transplantation from a donor with brodifacoum intoxication	共著	平成11年	Liver Transpl Surg 5	臨床肝移植において、殺鼠剤であるbrodifacoum中毒が死因の脳死ドナーからの提供肝が安全に使用できることを証明した。 P 509-511, (本人担当部分：データ解析、文献検索、執筆助手) Emre S, Kitabayashi K, Miller CM
36. 外傷性腸間膜損傷の治療成績	共著	平成11年	日本腹部救急医学会雑誌 19	腸間膜損傷37例について検討した。損傷部位は73%が小腸間膜で、腸管の虚血性変化をきたしたものは27%であった。腸間膜単独損傷症例は全例救命可能であり、遅発性の腸管虚血をきたす症例に注意する必要がある。 P 337-343, (本人担当部分：患者管理と手術の協力) 佐原博之、仁丹利行、北林一男、中野泰治、富田富士夫、斎藤人志、小坂健夫、喜多一郎、高島茂樹
37. Multicentric occurrence of esophageal cancer after gastrectomy: a preliminary report	共著	平成13年	Surgery today 31	胃切除後に発生する食道癌の特性を臨床病理学的に分析し、胃内溶液の食道内逆流による食道癌の多発傾向を過去の臨床症例から推定した。 P 670-774, (本人担当部分：研究立案から全般を担当) Kitabayashi K, Nakano Y, Saito H, Ueno K, Kita I, Takashima S, Kurose N, Nojima T
38. 高度進行消化器癌に対するCDDP/5FU分割投与法の有効性一特にlongNC症例に注目して一	共著	平成13年	日本消化器外科学会雑誌 34	高度進行消化器癌に対する低用量CDDP/5FU分割投与法について検討したところ、評価可能115例のうち奏功例は11例(9.6%)で、有効例は30例(26.1%)であった。本療法のtumor dormancy therapyとしての可能性が示唆された。 P 387-392, (本人担当部分：患者管理) 上野桂一、吉谷新一郎、仁丹利行、北林一男、中野泰治、斎藤人志、小坂健夫、喜多一郎、高島茂樹

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (症例報告) 1. Stewart-Treves syndrome (post mastectomy lymphangiosarcoma)の1例	共著	昭和60年	臨床外科 40	68歳女性、15年前に右乳癌にて定型的乳房切断術の後、腋窩に放射線療法を施行されている。以来、右上肢の浮腫を認めていた。最近、右上肢に赤紫色の皮膚腫瘍を認めたため、生検したところlymphangiosarcomaの診断を得たため、治療は右上腕の切断術を施行した。 P 1143-1146, (本人担当部分：手術協力と患者管理) 野口昌邦、 <u>北林一男</u> 、藤井久丈、橋本哲夫、滝川 豊、宮崎逸夫、富田勝郎、寺畑信太郎、松原藤継、筑田正志、津田宏信
2. 左主気管支形成術を施行した2例	共著	昭和60年	北陸外科学会雑誌 4	富山市民病院外科で経験した、肺癌に対する肺切除に際して、左主気管支形成術を施行した2例について報告した。 P 69-74, (本人担当部分：手術協力と患者管理) 草島義徳、 <u>北林一男</u> 、堀地 肇、菅原昇次郎、萩野 茂、石黒信彦、広野禎介、中西拓郎、中村裕行、水上陽真、小西秀男、杉原政美、高柳いつ立、百谷 泉、能登啓文、藤田秀春
3. 気管浸潤型甲状腺癌に対する気管形成術の経験—輪状軟骨気管吻合術を施行した1例—	共著	昭和61年	北陸外科学会雑誌 5	症例は65歳の女性で、広範に浸潤する甲状腺癌に対して、甲状腺全摘および気管を約5.2cm切除し、輪状軟骨気管吻合術を施行した。 P 83-86, (本人担当部分：手術協力と患者管理) 堀地 肇、広野禎介、草島義徳、 <u>北林一男</u> 、菅原昇次郎、萩野 茂、石黒信彦、高柳いつ立、中西拓郎
4. 食道壁内気管支囊胞の1例	共著	昭和61年	日本臨床外科医学会雑誌 47	64歳の女性、本邦13例目の食道壁内気管支囊胞を報告し、その発生学的な見地から考察した。 P 1274-1279, (本人担当部分：手術、患者管理、文献検索、執筆) <u>北林一男</u> 、草島義徳、広野禎介、堀地 肇、菅原昇次郎、萩野 茂、石黒信彦、中村裕行、水上陽真、杉原政美、高柳いつ立、能登啓文、藤田秀春、宮崎逸夫、百谷 泉
5. Tamoxifen治療中に巨大な脂肪肝を伴う高脂血症をきたした乳癌再発症の1例、	共著	昭和62年	癌の臨床 33	43歳女性、乳癌術後肺転移症例に対して、タモキシフェンにて加療中、脂肪肝と高脂血症を併発して死亡した1例について報告した。 P 300-304, (本人担当部分：手術協力と患者管理) 谷屋隆雄、野口昌邦、田尻 潔、 <u>北林一男</u> 、宮崎逸夫、越野慶隆、野々村昭孝、馬淵 宏
6. 多発性骨髄腫に合併した肺ガンの1切除例	共著	昭和62年	日本臨床外科医学会雑誌 48	53歳の男性、約3年前から多発性骨髄腫にて加療中、左S6の腺癌が発見され左肺下葉切除後、vindesine sulfateとisophosphamideにて治療した。 P 2012-2017, (本人担当部分：手術協力と患者管理、文献検索、執筆) <u>北林一男</u> 、木村寛伸、能登啓文、宮崎逸夫、草島義徳、広野禎介、中村裕行、水上陽真、杉原政美、高柳いつ立
7. 肝囊胞腺腫の1例	共著	昭和62年	北陸外科学会雑誌 6	74歳の男性、腹部超音波およびCTにて肝

				外側区域に径3.4cmの嚢胞性病変が認められ、1.8cm大の内腔への乳頭状突出が認められた。肝外側区域切除を行い、病理組織学的に肝嚢胞腺腫と診断された。 P 63-68, (本人担当部分: 主治医としての患者管理、文献検索、執筆) 北林一男、田中茂弘、泉 良平、宮崎逸夫、小林昭彦、高柳いつ立
8. 炎症性乳癌の2症例	共著	昭和63年	最新医学 43	47歳と81歳の女性、いずれも放射線療法を主体とする集学的治療を行ったが、前者は7ヶ月、後者は2年10ヶ月で死亡した。 P 443-449, (本人担当部分: 主治医としての患者管理、文献検索、執筆) 北林一男、野口昌邦、田尻 潔、藤井久文、宮崎逸夫、斎藤泰雄、寺畑信太郎、松原藤継
9. 溶血性貧血と汎発性白癬に合併した皮膚ノカルジア症: 症例報告と分離菌株Nocardia asteroidesの分類学的考察	共著	昭和63年	真菌と真菌症 29	54歳の男性、2年前から溶血性貧血にてステロイド内服中5ヶ月前から体部白癬にて加療を受けていた。右大腿に皮下硬結が出現し、同部からNocardia asteroidesが同定された。切開排膿後クラブラン酸アモキシシリンの内服とネチルマイシンの局所投与が有効であった。 P299-307, (本人担当部分: 主治医としての患者管理) 倉田幸夫、北林一男、岩佐和典、高橋繁夫、末永孝生、新井 正、横山知世子
10. Virchow転移を伴ったm胃癌の1例	共著	平成元年	日本臨床外科医学会雑誌 50	45歳の女性、左鎖骨上窩リンパ節の腫大を主訴に来院した。胃内視鏡にて幽門輪直前の大湾側に径1.5cmの粘膜内癌が認められた。組織型は印環細胞癌で、幽門側胃切除後全身化学療法を施行した。 P 1378-1382, (本人担当部分: 主治医としての患者管理、文献検索、執筆) 北林一男、米村 豊、鎌田 徹、三輪晃一、宮崎逸夫、佐々木素子、中沼安二
11. 術中エタノール注入療法併用肝切除術を施行した進行肝細胞癌の6例	共著	平成元年	日本消化器外科学会雑誌 22	根治切除不能な肝細胞癌に対して、術中エタノール注入療法を併用して、切除を施行した6例について報告した。 P 1883-1886, (本人担当部分: 患者管理) 泉 良平、谷 卓、清水康一、藪下和久、渡辺俊雄、北林一男、堀地 肇、伊井 徹、宮崎逸夫
12. 頸部食道瘻による栄養チューブ留置の2例 —食道拡張法による—	共著	平成5年	日本臨床外科医学会雑誌 54	留置法はまず経鼻的に食道内にバルーン付きチューブを挿入し、頸部食道でバルーン内に造影剤を注入して頸部食道の内腔を拡張させる。X線透視下に経皮的に頸部食道を穿刺して頸部食道瘻を作成した。この方法は簡便で、患者に与える侵襲や苦痛が少ない。 P 943-945, (本人担当部分: 患者管理) 中野泰治、北林一男、澤 敏治、吉光外宏
13. 集学的治療が有効であった再発胆嚢管癌の1例	共著	平成5年	胆と膵 14	症例は51歳の女性で、胆嚢管癌にて胆嚢胆管切除を施行され、3年2ヶ月後肝門部リンパ節再発を認めた。5-FUの大動脈内持続注入、放射線療法、OK432による免疫療法を施行したところ、腫瘍は完全に消失した。手術から6年10ヶ月後下部胆管癌の異時性重複癌にて死亡したが、剖検にてリンパ節再発は認められなかった。 P 977-982, (本人担当部分: 患者管理) 秋山高儀、小島靖彦、喜多一郎、小坂健夫、斎藤人志、富田富士夫、桐山正人、後藤田治公、竹川 茂、北林一男、松下昌弘、高島茂

				樹、木南義男、玉村裕保、山本 達、松能久雄、小西二三男
14. 多彩な肝炎性肉芽を伴った肝内コレステロール結石症の1例	共著	平成5年	日本消化器病学会雑誌 90	症例は61歳の男性で肝S6の炎症性変化を伴う肝内コレステロール結石にて肝右葉切除を施行した。 P 2940-2944, (本人担当部分: 患者管理) 秋山高儀、小島靖彦、松下昌弘、北林一男、竹川 茂、桐山正人、斎藤人志、富田富士夫、小坂健夫、喜多一郎、高島茂樹、松能久雄、小西二三男
15. 直腸肛門部無色素性悪性黒色腫の1例—本邦報告例の集計と考察—	共著	平成5年	日本大腸肛門病学会雑誌 46	症例は64歳の男性で、肛門出血・肛門痛を主訴に来院し、肛門管の2～6時方向に灰白色の規約1型の腫瘍を認めた。無色素性悪性黒色腫の診断にて直腸切断術を施行したが、肝・肺転移にて術後3ヶ月で死亡した。本症は本邦で16例の報告があるにすぎない極めて稀な疾患である。 P 802-807, (本人担当部分: 患者管理) 桐山正人、松下昌弘、北林一男、秋山高儀、富田富士夫、斎藤人志、高島茂樹、小西二三男
16. 腸結核が原因と考えられた回腸結腸瘻の1例	共著	平成8年	日本臨床外科医学会雑誌 57	65歳の女性、20歳時に肺結核の既往を有する。下腹部痛にて精査の結果回腸末端部と右側横行結腸に瘻孔を認めため、結腸右半切除を施行した。腸結核と他臓器との瘻孔形成例は稀であり、自験例は本邦7例目である。 P 2733-2737, (本人担当部分: 主治医としての手術と患者管理、文献検索、執筆) 北林一男、秋山高儀、富田富士夫、斎藤人志、高島茂樹、松能久雄
17. 十二指腸癌に合併した十二指腸乳頭部微小カルチノイドの1例	共著	平成9年	胆と膵 18	58歳男性、十二指腸下降脚に発生した径3.5cmの十二指腸癌に対して、膵頭十二指腸切除術を施行した。切除標本の検索の結果十二指腸乳頭内に微細なカルチノイド巣が発見された。 P 375-379, (本人担当部分: 主治医としての患者管理、文献検索、執筆) 北林一男、向井弘圭、佐原博之、秋山高儀、斎藤人志、高島茂樹、松能久雄
18. 画像上肝腫瘍の像を呈した腹腔内遊離体の1例	共著	平成9年	日本臨床外科医学会雑誌 58	66歳男性、肝S6表面に径2.2cm大の腫瘍陰影として認められた、肝内に埋没した腹腔内遊離体に対して腫瘍核出術を施行した。 P 209-212, (本人担当部分: 主治医としての患者管理、文献検索、執筆) 北林一男、向井弘圭、佐原博之、秋山高儀、斎藤人志、高島茂樹、松能久雄
19. Gastric cancer occurring in a patient with Plummer-Vinson syndrome: report of a case	共著	平成10年	Surgery today 28	59歳の女性、26歳頃からの鉄欠乏性貧血の既往がある。燕下困難にて来院し、頸部食道にwebを認めるとともに、胃幽門にポルマン2型胃癌を認めた。食道webはブジーにて治療し、幽門側胃切除術を施行した。Plummer-Vinson症候群と胃癌の関連について考察した。 P 1051-1055, (本人担当部分: 主治医としての手術と患者管理、文献検索、執筆) Kitabayashi K, Akiyama T, Tomita F, Saitoh H, Kosaka T, Kita I, Takashima S
20. TAEと低用量CDDP/5FU分割動注療法	共著	平成12年	北陸外科学会雑誌 19	症例は84歳の男性で、切除不能肝癌に対して、肝動注リザーバーからCDDP10mg2回、

によりPRを得た肝細胞癌の1例				5-FU100mg 4回の投与を3日間で1クールとし、合計20クール施行したところ、腫瘍の縮小と腫瘍マーカーの減少が認められた。 P 25-27, (本人担当部分: 主治医としての患者管理、文献検索、執筆指導) 向井弘圭、長谷川泰介、 <u>北林一男</u> 、上野柱一、斎藤人志、高島茂樹
21. Solitary pedunculated gastric gland heterotopia treated by endoscopic polypectomy: report of a case	共著	平成13年	Digestive Endoscopy 13	68歳の女性、嘔吐を主訴に来院し胃内視鏡施行したところ、胃体上部に2cm大で有茎性のポリープを認めため、内視鏡的に切除した。病理組織は異所性胃腺と判明した。異所性胃腺の発生過程について考察した。 P 33-36, (本人担当部分: 主治医としての内視鏡処置と患者管理、文献検索、執筆) <u>Kitabayashi K</u> , Tanaka Y, Saitoh H, Ueno K, Kosaka T, Kita I, Takashima S, Ueda Y
22. A spontaneously ruptured gastric stromal tumor presenting as generalized peritonitis: report of a case	共著	平成13年	Surgery today 31	75歳の男性、突然の腹痛にて来院し、急性腹症にて緊急手術施行したところ、胃から腹腔内へ突出する径15cm大の腫瘍の破裂による腹膜炎と判明した。胃部分切除術施行し、病理学的にGISTと診断された。破裂による腹膜炎として発症したGISTは初めての報告である。 P 350-354, (本人担当部分: 主治医としての手術と患者管理、文献検索、執筆) <u>Kitabayashi K</u> , Seki T, Kishimoto K, Saitoh H, Ueno K, Kita I, Takashima S, Kurose N, Nojima T
(学会報告) (国際学会発表) 1. The surgical treatment of parasternal recurrence of breast cancer	共同	昭和61年11月	First Beijing International Conference on General Surgery (Beijing, China)	乳癌における胸骨傍リンパ節再発症例に対して、胸骨縦割りによる再発巣切除の術式について詳述した。 (本人担当部分: 手術の協力と患者管理) <u>Kitabayashi K</u> , Tajiri K, Fujii H, Noguchi M, Miyazaki I
2. Effect of 15-deoxyspergualin on canine pancreatic allotransplantation with special reference to changes of plasma prostaglandin levels	共同	平成元年11月	First Congress of the Asian Transplantation Society (Bali, Indonesia)	イヌ同種臓器移植モデルにおける急性拒絶反応の治療薬としての15-deoxyspergualinの有効性と至適投与量、血中プロスタグランディンに及ぼす影響などを検討した。 (本人担当部分: 実験計画の立案、実施、データ解析) <u>Kitabayashi K</u> , Urade M, Tani T, Horichi H, Tomita H, Kiriya M, Yagi M, Izumi R, Konishi K, Miyazaki I

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. Comparison of OKT3 and ATG as induction immunosuppression in renal transplantation	共同	平成6年7月	North American Society for Dialysis and Transplantation XIII Annual Symposium (Maui, Hawaii)	臨床腎移植における導入免疫抑制療法として、モノクローナルなOKT3とポリクローナルなATGの有効性を比較した。 (本人担当部分: 研究立案とデータ検索) <u>Kitabayashi K</u> , Munn S, Engen D, Steers J, Kohli V, Sterioff S
4. The role of arterial ketone body ratio in clinical liver transplantation	共同	平成7年9月	Joint Congress on Liver Transplantation (London, UK)	臨床肝移植におけるレシピエントの血中ケトン体比が、移植肝のviabilityの指標となるか否かを検討した。 (本人担当部分: 研究立案と、データ検索) <u>Kitabayashi K</u> , Gores G, Burritt M, Krom R
5. Comparison of	共同	平成11年11	The 45th Annual	食道癌術後の再建臓器の食物運搬能を胃管群

motility functions between gastric and colonic conduits after esophagectomy		月	Congress of ICS-JS (Tokyo, Japan)	と結腸群とで、放射線非透過性マーカー燕下法と消化管シンチにて比較検討した。 (本人担当部分: 研究立案と実施、データまとめ) <u>Kitabayashi K</u> , Nakano Y, Saito H, Ueno K, Kita I, Takashima S
6. Comparison of motility functions between gastric and colonic conduits after esophagectomy	共同	平成12年11月	The 46th Annual Congress of ICS-JS (Morioka, Japan)	食道癌術後の再建臓器の食物運搬能を胃管群と結腸群とで、放射線非透過性マーカー燕下法と消化管シンチにて比較検討した。 (本人担当部分: 研究立案と実施、データまとめ) <u>Kitabayashi K</u> , Nakano Y, Saito H, Ueno K, Kita I, Takashima S
(国内学会発表) 1. 食道癌の胃壁内転移症例からの検討	共同	昭和61年11月	第48回日本臨床外科学会 大阪	食道癌に特徴的である、壁内転移のなかでも胃壁内転移を有する症例の特徴について検討した。 (本人担当部分: 研究立案と実施、データまとめ) <u>北林一男</u> 、能登啓文、八木雅夫、角谷直孝、桐山正人、嶋 裕一、藤田秀春、宮崎逸夫
2. 食道癌術後における術後水分出納について	共同	昭和62年4月	第2回日本ショック学会 東京	食道癌症例における術中、術後の水分出納について検討した。 (本人担当部分: 研究立案と実施、データまとめ) <u>北林一男</u> 、能登啓文、八木雅夫、嶋 裕一、伊藤雅之、宮崎逸夫、藤田秀春
3. 膵管胆道合流異常症例における胆管非切除症例の検討	共同	昭和63年9月	第11回日本膵管胆道合流異常研究会 大阪	当科で経験した膵管胆道合流異常症例のうち、治療として胆管を切除しなかった症例について検討した。 (本人担当部分: 研究立案と実施、データまとめ) <u>北林一男</u> 、小西孝司、宮崎逸夫、他13名
4. イヌ同種膵移植での15-deoxyspergualinの効果と血中プロスタグランジンの変動	共同	平成元年11月	第25回日本移植学会 東京	イヌ同種膵移植モデルにおける急性拒絶反応の治療薬としての15-deoxyspergualinの有効性と至適投与量、血中プロスタグランジンに及ぼす影響などを検討した。 (本人担当部分: 実験計画の立案、実施、データ解析) <u>北林一男</u> 、浦出雅昭、谷 卓、堀地 肇、富田 寛、桐山正人、清水康一、八木雅夫、泉良平、小西孝司、宮崎逸夫
5. イヌ同種膵移植における15-deoxyspergualin(DSG)投与法の検討	共同	平成2年2月	第16回膵移植談話会 金沢	イヌ同種膵移植モデルにおける急性拒絶反応の治療薬としての15-deoxyspergualinの有効性と至適投与量、血中プロスタグランジンに及ぼす影響などを検討した。 (本人担当部分: 実験計画の立案、実施、データ解析) <u>北林一男</u> 、泉 良平、宮崎逸夫、他8名
6. 高度進行胃癌に対する術前化学療法の効果—PMUE療法によるneoadjuvant chemotherapy—	共同	平成3年4月	第91回日本外科学会 京都	根治切除不能な進行胃癌症例に対して、シスプラチン、5-FU、マイトマイシンCを用いた術前化学療法を施行し、奏効率、切除率とも向上した。 (本人担当部分: 研究計画の立案、実施、解析) <u>北林一男</u> 、中野泰治、澤 敏治、吉光外宏
7. 高度進行胃癌に対する術前化学療法の効果—PMUE療法によるneoadjuvant chemotherapy—	共同	平成4年2月	第39回日本消化器外科学会 神戸	根治切除不能な進行胃癌症例に対して、シスプラチン、5-FU、マイトマイシンCを用いた術前化学療法を施行し、奏効率、切除率とも向上した。 (本人担当部分: 研究計画の立案、実施、解析) <u>北林一男</u> 、中野泰治、澤 敏治、吉光外宏
8. 高齢者緊急手術症例の検討	共同	平成4年10月	第19回日本腹部救急医学会総会 山形	80歳以上の高齢者の緊急手術症例について、死亡例と生存例に分類して、その危険因子について検討した。

				(本人担当部分：研究計画の立案、実施、解析) <u>北林一男</u>
9. Blind loopに発生した結腸癌の1例、	共同	平成4年11月	第47回日本大腸肛門病学会 大阪	73歳女性、20年前に腸閉塞にて回腸横行結腸側側吻合術を受けている。今回、回盲部が一塊となる盲腸癌を発症し、ブラインドループ内の細菌叢の変化等の点から考察した。 (本人担当部分：主治医としての管理とまとめ) <u>北林一男</u> 、竹川 茂、後藤田治公、秋山高儀、桐山正人、富田富士夫、齋藤人志、小坂健夫、喜多一郎、小島靖彦、高島茂樹
10. 大腸癌肝転移再発に対する病理組織学的risk factorの検討	共同	平成5年2月	第38回日本大腸癌研究会 大阪	当科で経験した大腸癌肝転移症例を検討し、そのリスクファクターを検索した。 (本人担当部分：研究計画の立案、実施、解析) <u>北林一男</u> 、平野晃一、竹川 茂、後藤田治公、桐山正人、富田富士夫、齋藤人志、小坂健夫、喜多一郎、小島靖彦、高島茂樹
11. 肺癌腹腔内転移による大腸イレウスの一例、	共同	平成5年3月	第20回日本腹部救急医学会 名古屋	肺癌の手術既往を有する患者に発症したイレウスに対して緊急手術を施行したところ、腹腔内転移によるイレウスと判明した1例を報告した。 (本人担当部分：主治医としての管理とまとめ) <u>北林一男</u> 、平野晃一、竹川 茂、後藤田治公、桐山正人、富田富士夫、齋藤人志、小坂健夫、喜多一郎、小島靖彦、高島茂樹
12. メイヨークリニックにおける肝移植の実際	共同	平成7年7月	第46回日本消化器外科学会 福井	ビデオにてメイヨークリニックにおける肝移植の手術手技を詳述し、ドナーおよびレシピエント手術の工夫と問題点について言及した。 (本人担当部分：全般を担当) <u>北林一男</u> 、高島茂樹、Ruud AF Krom
13. 腎移植における初期免疫抑制剤としてのOKT3とATGの比較	共同	平成7年9月	第32回日本移植学会 京都	臨床腎移植における導入免疫抑制療法として、モノクローナルなOKT3とポリクローナルなATGの有効性を比較した。 (本人担当部分：研究立案とデータ検索) <u>北林一男</u> 、高島茂樹、S Steriof、SR Munn
14. 臨床肝移植におけるAKBRの有用性	共同	平成7年12月	第5回肝エネルギー代謝とAKBR研究会 大阪	臨床肝移植におけるレシピエントの血中ケトン体比が、移植肝のviabilityの指標となるか否かを検討した。 (本人担当部分：研究立案とデータ検索) <u>北林一男</u> 、高島茂樹、Gregory J Gores、Ruud AF Krom
15. 食道・胃静脈瘤手術の治療成績と再発(燃)再手術例の検討	共同	平成8年2月	第47回日本消化器外科学会 大阪	当科で経験した、食道・胃静脈瘤の手術成績と、再発例の原因・特徴を検索した。 (本人担当部分：研究立案とデータ検索) <u>北林一男</u> 、村山茂美、秋山高儀、富田富士夫、齋藤人志、小坂健夫、喜多一郎、高島茂樹
16. 肝内胆管癌の治療成績	共同	平成8年6月	第32回日本肝癌研究会 大阪	当科における肝内胆管癌の治療成績について検討した。 (本人担当部分：研究立案とデータ検索) <u>北林一男</u> 、佐原博之、秋山高儀、富田富士夫、齋藤人志、小坂健夫、喜多一郎、高島茂樹
17. 肝細胞癌手術症例の治療成績と予後因子	共同	平成8年7月	第48回日本消化器外科学会 東京	当科における肝細胞癌手術症例について検討し、その治療成績と予後規定因子を検索した。 (本人担当部分：研究立案とデータ検索) <u>北林一男</u> 、瀬島照弘、秋山高儀、富田富士夫、齋藤人志、小坂健夫、喜多一郎、高島茂樹

18. 画像上肝腫瘤を呈した腹腔内遊離体の1例	共同	平成8年8月	第25回日本消化器画像診断研究会 金沢	66歳男性、肝S6表面に径2.2cm大の腫瘤陰影として認められた、肝内に埋没した腹腔内遊離体に対して腫瘍核出術を施行した。 (本人担当部分:主治医としての患者管理、文献検索、) 北林一男、向井弘圭、明石浩一、佐原博之、秋山高儀、富田富士夫、斎藤人志、小坂健夫、喜多一郎、高島茂樹
19. 外傷性肝損傷手術例の検討	共同	平成8年9月	第27回日本腹部救急医学会 盛岡	肝損傷症例を臨床病理学的に分析し、血中トランスアミナーゼ値がその重症度をよく反映することを証明した。 (本人担当部分:研究立案から全般を担当) 北林一男、佐原博之、秋山高儀、富田富士夫、斎藤人志、小坂健夫、喜多一郎、高島茂樹
20. 外傷性肝損傷症例の検討	共同	平成8年10月	第58回日本臨床外科学会 京都	肝損傷症例を臨床病理学的に分析し、血中トランスアミナーゼ値がその重症度をよく反映することを証明した。 (本人担当部分:研究立案から全般を担当) 北林一男、佐原博之、秋山高儀、富田富士夫、斎藤人志、小坂健夫、喜多一郎、高島茂樹
21. 肝内胆管癌の外科的治療成績	共同	平成8年11月	第34回癌治療学会 東京	当科における肝内胆管癌の治療成績について検討した。 (本人担当部分:研究立案とデータ検索) 北林一男、明石浩一、佐原博之、秋山高儀、斎藤人志、小坂健夫、喜多一郎、高島茂樹
22. 十二指腸乳頭部カルチノイドの2例、	共同	平成8年11月	第8回日本肝胆膵外科学会 大阪	58歳男性、十二指腸下降脚に発生した径3.5cmの十二指腸癌に対して、膵頭十二指腸切除術を施行した。切除標本の検索の結果十二指腸乳頭内に微細なカルチノイド巣が発見された。 (本人担当部分:主治医としての患者管理、文献検索)北林一男、向井弘圭、明石浩一、佐原博之、瀬戸啓太郎、秋山高儀、富田富士夫、斎藤人志、小坂健夫、喜多一郎、高島茂樹
23. III型外傷性肝損傷症例の検討	共同	平成9年3月	第28回日本腹部救急医学会 高知	肝損傷症例を臨床病理学的に分析し、血中トランスアミナーゼ値がその重症度をよく反映することを証明した。 (本人担当部分:研究立案から全般を担当) 北林一男、佐原博之、松下昌弘、秋山高儀、斎藤人志、小坂健夫、喜多一郎、高島茂樹
24. 急性閉塞性化膿性胆管炎の検討	共同	平成11年3月	第32回日本腹部救急医学会総会 横浜	当科で経験した急性閉塞性化膿性胆管炎について検討し、その重症度と初期治療、予後規定因子等について検討した。 (本人担当部分:研究立案から全般を担当) 北林一男、関 崇、長谷川泰介、佐原博之、秋山高儀、斎藤人志、高島茂樹
25. 胃切除後食道癌症例の検討	共同	平成11年10月	第37回日本癌治療学会 岐阜	胃切除後に発生する食道癌の特性を臨床病理学的に分析し、胃内溶液の食道内逆流による食道癌の多発傾向を過去の臨床症例から推定した。 (本人担当部分:研究立案から全般を担当) 北林一男、原田英也、長谷川泰介、仁丹利行、中野泰治、斎藤人志、上野桂一、小坂健夫、喜多一郎、高島茂樹
26. 食道癌術後における再建臓器の機能評価	共同	平成11年11月	第61回日本臨床外科学会 東京	食道癌術後の再建臓器の食物運搬能を胃管群と結腸群とで、放射線非透過性マーカー燕下法と消化管シンチにて比較検討した。 (本人担当部分:研究立案と実施、データまとめ) 北林一男、原田英也、長谷川泰介、仁丹利行、佐原博之、斎藤人志、上野桂一、小坂健夫、喜多一郎、高島茂樹

27. 胃内に穿破した膵頭十二指腸切除術後仮性脾動脈瘤の1例	共同	平成12年3月	第34回日本腹部救急医学会 久留米	膵頭十二指腸切除、膵胃吻合術後1ヶ月目に仮性脾動脈瘤が胃内に穿破し大出血をきたしたが、IVRによるコイル塞栓術にて止血救命し得た1例を報告した。 (本人担当部分: 主治医としての患者管理、文献検索) 北林一男、関 崇、河崎久美子、長谷川泰介、佐原博之、斎藤人志、上野桂一、喜多一郎、高島茂樹
28. 術後7年目に肺門リンパ節再発による気管支・食道狭窄をきたした十二指腸乳頭部癌の1例	共同	平成12年5月	日本肝胆膵外科関連会 名古屋	十二指腸乳頭部癌にて膵頭十二指腸切除術後7年目に、肺門リンパ節再発をきたして、食道狭窄を併発した1例を報告した。 (本人担当部分: 主治医としての患者管理、文献検索) 北林一男、長谷川泰介、佐原博之、斎藤人志、上野桂一、喜多一郎、高島茂樹、上田善道
29. 80歳以上の高齢者における肝細胞癌例の検討	共同	平成12年6月	第36回日本肝癌研究会 東京	当科で経験した80歳以上の肝細胞癌症例の特徴と問題点について検討した。 (本人担当部分: 研究立案と実施、データまとめ) 北林一男、斎藤人志、上野桂一、喜多一郎、高島茂樹
30. 胆嚢腺扁平上皮癌の検討	共同	平成12年7月	第55回日本消化器外科学会 宮崎	当科で経験した胆嚢腺扁平上皮癌症例について、その臨床病理学的特徴について検討した。 (本人担当部分: 研究立案と実施、データまとめ) 北林一男、長谷川泰介、佐原博之、斎藤人志、上野桂一、喜多一郎、高島茂樹、黒瀬望、野島孝之
31. 外傷性膵・十二指腸損傷の検討	共同	平成12年9月	第35回日本腹部救急医学会総会 東京	当科で経験した膵・十二指腸損傷症例について検討した。 (本人担当部分: 研究立案と実施、データまとめ) 北林一男、長谷川泰介、斎藤人志、上野桂一、小坂健夫、喜多一郎、高島茂樹
32. 食道癌術後における再建臓器の機能評価	共同	平成12年11月	第62回日本臨床外科学会 名古屋	食道癌術後の再建臓器の食物運搬能を胃管群と結腸群とで、放射線非透過性マーカー燕下法と消化管シンチにて比較検討した。 (本人担当部分: 研究立案と実施、データまとめ) 北林一男、上繁宣雄、長谷川泰介、中野泰治、斎藤人志、上野桂一、小坂健夫、高島茂樹
33. 血中逸脱酵素値からみた肝・膵外傷分類	共同	平成13年3月	第36回日本腹部救急医学会総会 北九州	肝外傷では血中トランスアミナーゼ値が、膵外傷では血中アミラーゼ値が重症度の指標となることを証明した。 (本人担当部分: 研究立案と実施、データまとめ) 北林一男、長谷川泰介、斎藤人志、上野桂一、小坂健夫、高島茂樹
34. 食道癌術後における再建臓器の機能評価	共同	平成13年4月	第101回日本外科学会 仙台	食道癌術後の再建臓器の食物運搬能を胃管群と結腸群とで、放射線非透過性マーカー燕下法と消化管シンチにて比較検討した。 (本人担当部分: 研究立案と実施、データまとめ) 北林一男、長谷川泰介、中野泰治、斎藤人志、上野桂一、小坂健夫、高島茂樹
35. 超音波ガイド下留置針を用いた転移性肝癌切除術の工夫	共同	平成13年6月	第26回日本外科系連合学会 東京	転移性肝癌の切除に際して、超音波ガイドにて切離予定線に針を留置することにより、迅速かつ安全に肝切除が施行できることをビデオにて詳述した。 (本人担当部分: 研究立案と手術の実施) 北林一男、長谷川泰介、原田英也、吉谷新一郎、上野桂一、斎藤人志、小坂健夫、喜多一郎、高島茂樹
36. 膵管内蛋白栓を合併した膵管胆道合流異常症に対する手術の工夫	共同	平成13年6月	日本肝胆膵外科関連会議 仙台	膵管内蛋白栓を有する膵管胆道合流異常症に対する手術の工夫をビデオにて詳述した。 (本人担当部分: 研究立案と手術の実施)

				北林一男、横井美樹、向井弘圭、長谷川泰介、上野桂一、斎藤人志、高島茂樹
37. Fibrolamellar hepatocellular carcinomaの1例	共同	平成13年7月	第56回日本消化器外科学会 秋田	本邦では極めて稀であるFibrolamellar hepatocellular carcinomaの1例を経験したので、文献的考察を含めて報告した。 (本人担当部分：主治医としての患者管理、文献検索) 北林一男、横井美樹、長谷川泰介、上野桂一、斎藤人志、小坂健夫、喜多一郎、高島茂樹、野島孝之、黒瀬 望
38. 門脈ガス血症を呈した急性腹症の2例	共同	平成13年10月	第63回日本臨床外科学会 横浜	対照的な予後を呈した門脈内ガス血症の2例について報告した。 (本人担当部分：主治医としての患者管理、文献検索) 北林一男、原田英也、長谷川泰介、吉谷新一郎、上野桂一、斎藤人志、小坂健夫、高島茂樹